

研究・調査報告書

報告書番号	担当
487	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption is associated with a decreased risk of benign prostatic hyperplasia. アルコール消費は良性前立腺肥大症のリスク減少に関係する	
執筆者	
Parsons JK, Im R.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Urol. 2009 Oct;182(4):1463-8.	
キーワード	
尿路, 前立腺肥大, 疫学, メタボリックシンドローム X, アルコール飲料	
要旨	
目的： いくつかの研究ではアルコール消費が良性前立腺肥大症リスクの減少に関係していると示しているが、そうでないものもある。そこで、我々はアルコールと良性前立腺肥大症および男性の下部尿路通過障害の関係をシステマティックレビューとメタアナリシスを用いて評価した。	
方法： アルコール摂取、良性前立腺肥大症および下部尿路通過障害に関係する公表された研究のメタアナリシスをおこなった。調整された効果推定の統合オッズ比を得るために、変量効果モデルの抽出データを分析した。	
結果： 合計 19 個の研究 (男性 120,091 人) では選択基準に適合し、そのうち 14 個の研究では、アルコール摂取の増加によって良性前立腺肥大症もしくは下部尿路通過障害が顕著に減少する可能性を明らかにした。16 個の研究はプールされた分析に適格であり、12 個の研究では第一アウトカムとして良性前立腺肥大症を設定していた。総アルコール摂取量(g/day)で 6 つの層に分けて分析したところ、アルコール摂取はかなり、またはわずかに、6 つの層すべてにおいて良性前立腺肥大症の可能性を減少させた(p values 0.08, 0.01, <0.001, 0.02, 0.001,<0.001)。非飲酒者に比べて 36g/day か、それ以上の飲酒者は、良性前立腺肥大症の可能性が 35%減少した(OR 0.65, 95% CI 0.58–0.74, p <0.001)。第一アウトカムとして下部尿路通過障害を用いた 4 つの研究のうち 3 つの研究では、アルコール消費によって下部尿路通過障害の可能性が有意に増加することを示した。	
結論： アルコールの消費量は、良性前立腺肥大症の可能性の減少に関連しているが、下部尿路通過障害について関連しているというわけではない。アルコールが良性前立腺肥大症のリスクを変更するメカニズムを明らかにするためには、更なる研究が望まれる。	